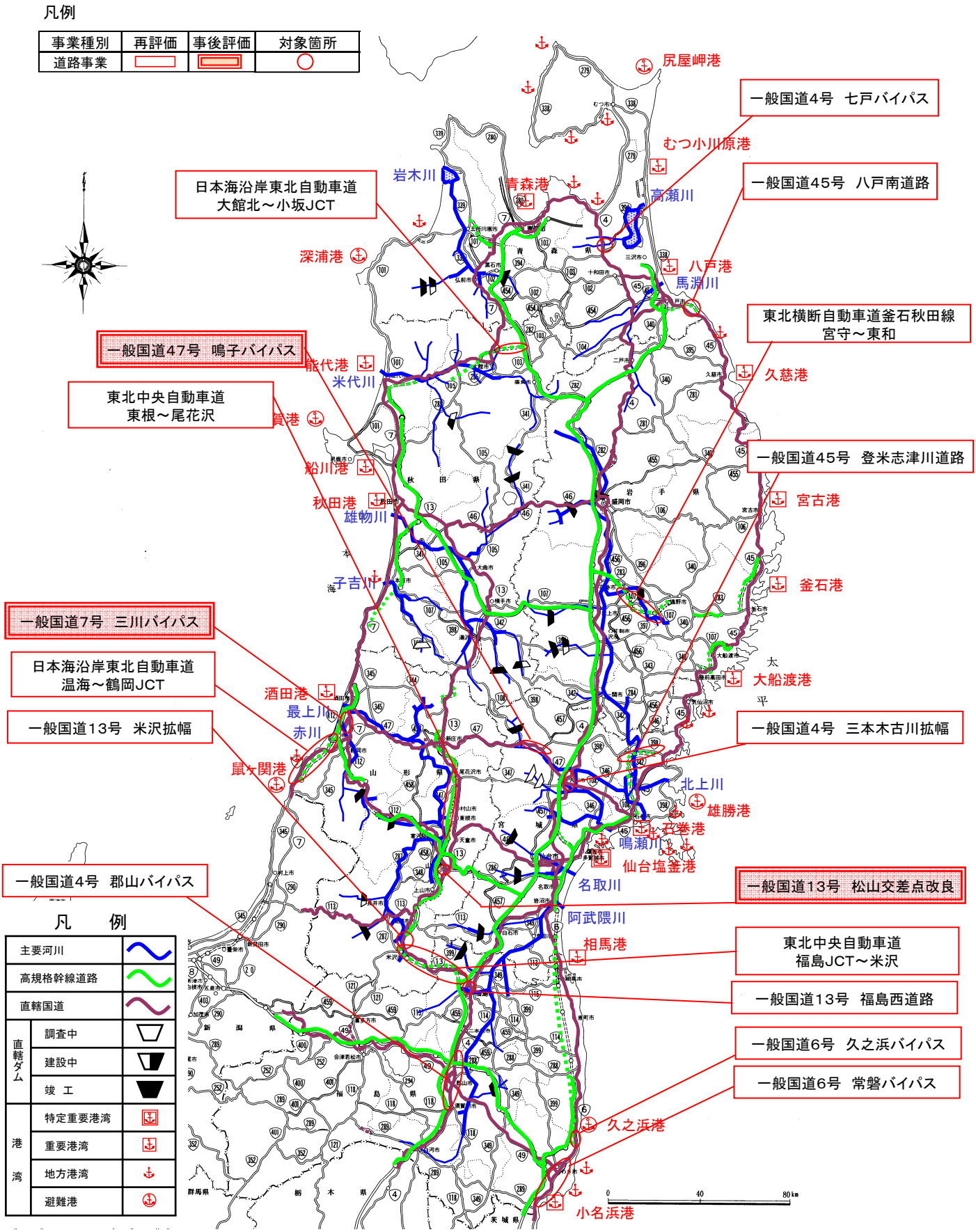
資　料　４

次回審議対象事業資料
（道　路　事　業）

平成20年度　事業評価監視委員会
審議対象事業　位置図（道路）



再評価を実施する事業の一覧表（道路事業）

【別紙２】

No	都道府県名	事業名	事業概要	事業の必要性等に関する視点	事業の進捗の見込みの視点	コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	備　　考
1	青森	一般国道45号　八戸南道路 【事業種別】 高規格	【事業目的】 ・八戸久慈自動車道の一部を形成し、八戸久慈地域の交流・連携を促進 ・八戸市街部を通過する国道４５号の渋滞解消（渋滞長L=500m） ・青森、岩手県境付近から医療施設へのアクセス向上 【計画概要】 ・事業延長　8.7km ・事業費　306億円（暫定235億円） 【事業経緯】 ・事業化年度　H7 ・都市計画決定　H11 ・用地着手年度　H14 ・工事着手年度　H15 ・供用済延長　3.4km	【事業を巡る社会情勢等の変化】 ・事業の目的が失われるような周辺環境の変化は無い。 【事業の投資効果】 ・算定中 【事業の進捗状況】 ・進捗率　75%（暫定） ・H19：L=3.4km(2/4)供用 【特記事項】 ・T'99＝19,158台/日→T'05＝16,739台/日 ・三陸沿岸北部地域の高規格幹線道路ネットワークの形成。 ・客観的評価指標16項目に該当 ・上記の視点から、早期整備の必要性が高い。	・一部の用地買収において難航箇所があり、現在、事業認定の手続きを準備中 【供用予定等】 ・平成20年代中頃 L=5.3km暫定2車線供用予定	・橋梁形式の決定にあたり、箱桁幅を従来より狭くした狭小箱桁を採用 ・「耐候性鋼材」を採用し、維持管理のコスト縮減を図る。	都市計画決定後 10年経過継続
2	宮城	一般国道45号　登米志津川道路 【事業種別】 高規格	【事業目的】 ・三陸縦貫自動車道の一部を形成し、宮城県北沿岸地域の交流・連携を促進 ・緊急輸送道路の信頼性の向上 ・災害時におけるリダンダンシーの確保 【計画概要】 ・事業延長　16.1km ・事業費　550億円（暫定390億円） 【事業経緯】 ・事業化年度　H6 ・都市計画決定又は変更年度　－ ・用地着手年度　H15 ・工事着手年度　H16 ・供用済延長　－	【事業を巡る社会情勢等の変化】 ・事業の目的が失われるような周辺環境の変化は無い。 【事業の投資効果】 ・算定中 【事業の進捗状況】 ・進捗率　48%（暫定） 【特記事項】 T'99=5,678台/日→T'05=6,124台/日 ・国土・地域ネットワークの構築 ・災害時の代替路の確保 ・客観的評価指標13項目に該当 ・上記の視点から早期整備の必要性が高い。	・事業進捗に係る問題はない。 【供用予定等】 ・平成21年度 L=5.0km暫定２車線供用予定 ・平成20年代 L=11.1km全線暫定２車線供用予定	・橋梁形式の変更（少数I桁橋の採用、耐候性鋼材の採用）によりコスト縮減を図る。 ・伐開除根材の法面緑化への有効活用によりコスト縮減を図る。	H15再評価後 5年経過

※精査の関係で数値等が変更になる場合があります。

再評価を実施する事業の一覧表（道路事業）

【別紙２】

No	都道府県名	事業名	事業概要	事業の必要性等に関する視点	事業の進捗の見込みの視点	コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	備　　考
3	岩手	東北横断自動車道釜石秋田線　宮守～東和 【事業種別】 新直轄	【事業目的】 ・東北横断自動車道釜石秋田線の一部を形成し、広域的な交流・連携の促進 ・物流利便性の向上 ・緊急輸送道路の信頼性向上 【計画概要】 ・事業延長　　24km ・事業費　772億円 【事業経緯】 ・事業化年度　H10 ・都市計画決定又は変更年度　H8 ・用地着手年度　H17 ・工事着手年度　H17 ・供用済延長　－	【事業を巡る社会情勢等の変化】 ・事業の目的が失われるような周辺環境の変化は無い 【事業の投資効果】 ・算定中 【事業の進捗状況】 ・進捗率　　41％ 【特記事項】 ・T'99=9,182台/日→T'05=8,926台/日 ・県南沿岸地域と中央部を結ぶ高規格幹線道路ネットワークの形成。 ・医療施設へのアクセス時間短縮 ・客観的評価指標14項目に該当 ・上記の視点から早期整備の必要性が高い	・一部の用地買収において難航箇所があり、現在、事業認定の手続きを準備中。 【供用予定等】 ・平成20年代中頃 L=24km全線2車線供用予定	・河川管理者との協議により径間数を変更し、コスト縮減を図る。（河川の付け替えをすることにより、４径間→５径間が可能となり、コストが縮減） ・トンネル断面の見直しによるコスト縮減を図る。	H15再評価後 5年経過
4	秋田	日本海沿岸東北自動車道　大館北～小坂JCT 【事業種別】 新直轄	【事業目的】 ・日本海沿岸東北自動車道の一部を形成し、広域的な交流・連携の促進 ・高規格幹線道路ネットワークの構築 ・リダンダンシーの確保 ・大館能代空港、能代港へのアクセス向上 ・三次救急医療施設へのアクセス向上 ・秋田県北部エコタウン計画推進への支援 【計画概要】 ・事業延長　　14km ・事業費　　705億円 【事業経緯】 ・事業化年度　H10 ・都市計画決定又は変更年度　－ ・用地着手年度　H13 ・工事着手年度　H16 ・供用済延長　－	【事業を巡る社会情勢等の変化】 ・事業の目的が失われるような周辺環境の変化は無い 【事業の投資効果】 ・算定中 【事業の進捗状況】 ・進捗率　47% 【特記事項】 ・T'99=12,908台/日→T'05=13,733台/日 ・東北縦貫自動車道と接続 ・客観的評価指標15項目に該当 ・上記の視点から早期整備の必要性が高い。	・一部の用地買収において難航箇所があり、現在事業認定の手続きを準備中。 【供用予定等】 ・平成20年代中頃 L=14km 全線2車線供用予定	・トンネル断面の見直しによるコスト縮減を図る。 ・大川目沢橋において耐候性鋼材を採用し、維持管理のコスト縮減を図る。	H15再評価後 5年経過

※精査の関係で数値等が変更になる場合があります。

再評価を実施する事業の一覧表（道路事業）

【別紙２】

No	都道府県名	事業名	事業概要	事業の必要性等に関する視点	事業の進捗の見込みの視点	コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	備　　考
5	山形	日本海沿岸東北自動車道　温海～鶴岡JCT 【事業種別】 新直轄	【事業目的】 ・日本海沿岸東北自動車道の一部を形成し、広域的な交流・連携の促進 ・災害輸送道路の信頼性確保 ・流通の利便性の支援 ・高次医療施設へのアクセス向上 【計画概要】 ・事業延長　26km ・事業費　1,117億円 【事業経緯】 ・事業化年度　H9 ・都市計画決定又は変更年度　H11 ・用地着手年度　H12 ・工事着手年度　H12 ・供用済延長　－	【事業を巡る社会情勢等の変化】 ・事業の目的が失われるような周辺環境の変化は無い 【事業の投資効果】 ・算定中 【事業の進捗状況】 ・進捗率　57% 【特記事項】 ・T'99=13,324台/日→T'05=13,583台/日 ・事前通行規制区間が存在 ・ISO背高ｺﾝﾃﾅ通行不能箇所が存在 ・客観的評価指標16項目に該当 ・上記の視点から早期整備の必要性が高い	・一部の用地買収において難航箇所があり、現在事業認定の手続きを準備中。 【供用予定等】 ・平成23年度 L=26km全線2車線供用予定	・橋梁設計の見直し（波形鋼板ウェブ橋の外ケーブル本数及び波形鋼板の厚さ）によりコスト縮減を図る。 ・トンネルズリ運搬方式を変更することによりコスト縮減を図る（ダンプトラック→ベルトコンベア）	H15再評価後5年経過
6	山形	東北中央自動車道　東根～尾花沢 【事業種別】 新直轄	【事業目的】 ・東北中央自動車道の一部を形成し、広域的な交流、連携の促進 ・緊急輸送道路の信頼性向上 ・交通混雑の緩和 【計画概要】 ・事業延長　23km ・事業費　745億円 【事業経緯】 ・事業化年度　H10 ・都市計画決定又は変更年度　H8 ・用地着手年度　H18 ・工事着手年度　H19 ・供用済延長　－	【事業を巡る社会情勢等の変化】 ・事業の目的が失われるような周辺環境の変化は無い 【事業の投資効果】 ・算定中 【事業の進捗状況】 ・進捗率　10% 【特記事項】 ・T'99=41,898台/日　→　T'05=36,969台/日 ・客観的評価指標14項目に該当 ・高規格幹線道路ネットワークの構築 ・三次救急医療施設60分圏域の拡大 ・上記の視点から早期整備の必要性が高い	・事業進捗に係る問題はない。 【供用予定等】 ・平成20年代後半 L=23km全線2車線供用予定	・再生資材（再生砕石、再生アスファルト合材等）の活用を図り、コスト縮減を図る。 ・「耐候性鋼材」を採用し、初期コスト及びライフサイクルコストとともに経済的で、維持管理のコスト縮減を図る。 ・一部盛土材を購入土から他公共事業との調整により、残土を受け入れることでコスト縮減を図る。	H15再評価後5年経過

※精査の関係で数値等が変更になる場合があります。

再評価を実施する事業の一覧表（道路事業）

【別紙２】

No	都道府県名	事業名	事業概要	事業の必要性等に関する視点	事業の進捗の見込みの視点	コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	備　　考
7	福島	東北中央自動車道　福島JCT～米沢 【事業種別】 新直轄	【事業目的】 ・東北中央自動車道の一部を形成し、広域的な交流、連携の促進 ・緊急輸送道路の信頼性向上 【事業概要】 ・事業延長　28km ・事業費　1,549億円 【事業経緯】 ・事業化（着工準備）年度　H10 ・都市計画決定又は変更年度　H10 ・用地着手年度　H13 ・工事着手年度　H16 ・供用済延長　－	【事業を巡る社会情勢等の変化】 ・事業の目的が失われるような周辺環境の変化は無い。 【事業の投資効果】 ・算定中 【事業の進捗状況】 ・進捗率　39% 【特記事項】 ・T'98=9,010台/日→T'05=9,449台/日 ・事前通行規制区間L=19kmが存在 ・通行止め・スタックによる通行規制が発生 ・客観的評価指標15項目に該当 ・上記の視点から早期整備の必要性が高い	・一部の用地買収において難航箇所があり、現在事業認定の手続きを準備中。 【供用予定等】 ・平成20年代後半 L=28km全線2車線供用予定	・ＰＣ箱桁橋を、ＰＣ波形鋼板ウェブ箱桁橋とすることでコスト縮減を図る。	H15再評価後5年経過
8	福島	一般国道4号　郡山バイパス 【事業種別】 地域高規格	【事業目的】 ・地域高規格道路である郡山西環状道路を形成し、郡山都市圏及び周辺市町村の交流・連携の促進 ・郡山市街地の交通混雑の緩和 ・交通の適切な分散・誘導による郡山都市圏の交通円滑化 【計画概要】 ・事業延長　17.2km ・事業費　970億円 【事業経緯】 ・事業化年度　S49 ・都市計画決定又は変更年度　H6 ・用地着手年度　S49 ・工事着手年度　S50 ・供用済延長　17.2km	【事業を巡る社会情勢等の変化】 ・事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。 【事業の投資効果】 ・算定中 【事業の進捗状況】 ・進捗率　97% ・H 7 全線暫定2車線供用 ・H15 全線4車線供用 【特記事項】 ・T'99＝30,520台/日→T'05＝38,708台/日 ・郡山都市圏における渋滞の緩和 ・高度３次医療施設へのアクセス向上 ・災害時の緊急輸送ネットワークの確保 ・客観的評価指標15項目に該当 ・上記の視点から、早期整備の必要性が高い。	・事業進捗に係る問題はない。 【供用予定等】 ・平成21年度 L=1.5km　4車線供用（針生地区立体化）予定 ・針生地区立体完成後の交通状況を勘案し、以降の事業（L=0.3km　4車線供用（柴宮地区立体化））展開を検討、推進	・機能分散型支承を採用することによりコスト縮減を図る。 ・再生資材（再生砕石、再生アスファルト合材等）の活用を図り、コスト縮減を図る。	H15再評価後5年経過

※精査の関係で数値等が変更になる場合があります。

再評価を実施する事業の一覧表（道路事業）

【別紙２】

No	都道府県名	事業名	事業概要	事業の必要性等に関する視点	事業の進捗の見込みの視点	コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	備　　考
9	青森	一般国道4号　七戸バイパス 【事業種別】 一般二次	【事業目的】 ・七戸町内の線形不良等（R＜150が2箇所、急勾配が5箇所）に起因する交通混雑や交通隘路区間の解消 ・上十三地域の連携強化と広域交流の促進 ・東北新幹線七戸駅（仮称、H22年開業予定）へのアクセス向上 ・冬期間における交通障害、渋滞発生の解消と機能回復 【計画概要】 ・事業延長　5.7km ・事業費　94億円（暫定：72億円） 【事業経緯】 ・事業化年度　H元 ・都市計画決定又は変更年度　H元 ・用地着手年度　H6 ・工事着手年度　H7 ・供用済延長　2.9km	【事業を巡る社会情勢等の変化】 ・事業の目的が失われるような周辺環境の変化は無い。 【事業の投資効果】 ・算定中 【事業の進捗状況】 ・進捗率　92%（暫定） 【特記事項】 ・T'99=15,650台/日→T'05=16,518台/日 ・隘路区間の解消 ・災害時の代替路の確保 ・客観的評価指標17項目に該当 ・上記の視点から早期整備の必要性が高い。	・事業進捗に係る問題はない。 【供用予定等】 ・平成22年度 L=2.8km暫定2車線供用予定	・材料単価が経済的な再生資材の活用を図る。（再生砕石、再生アスファルト合材等） ・工期短縮に効果的で、経済的でもあるプレキャスト製品の長尺化を検討する。	H15再評価後 5年経過
10	宮城	一般国道4号　三本木古川拡幅 【事業種別】 一般二次	【事業目的】 ・歩行者、自転車の安全性・快適性の向上 ・交通混雑の緩和 【計画概要】 ・事業延長　16.1km ・事業費　230億円 【事業経緯】 ・事業化年度　S41 ・都市計画決定又は変更年度　S58 ・用地着手年度　S42 ・工事着手年度　S43 ・供用済延長　14.2km（4/4）	【事業を巡る社会情勢等の変化】 ・事業の目的が失われるような周辺環境の変化は無い。 【事業の投資効果】 ・算定中 【事業の進捗状況】 ・進捗率　93% ・S50～H18：L=14.2km（4/4）供用 【特記事項】 T'99=32,024台/日→T'05=42,166台/日 ・隘路区間の解消 ・災害時の代替路の確保 ・客観的評価指標17項目に該当 ・上記の視点から早期整備の必要性が高い。	・事業進捗に係る問題はない。 【供用予定等】 ・平成20年代 L=1.9km全線４車線供用予定	・アスファルト舗装において改質剤の使用による舗装の長寿命化によりライフサイクルコストの縮減を図る。	H15再評価後 5年経過

※精査の関係で数値等が変更になる場合があります。

再評価を実施する事業の一覧表（道路事業）

【別紙２】

No	都道府県名	事業名	事業概要	事業の必要性等に関する視点	事業の進捗の見込みの視点	コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	備　　考
11	山形	一般国道13号　米沢拡幅 【事業種別】 一般二次	【事業目的】 ・一般国道13号の一部として、広域交流の支援並びに沿線市町村の連携強化 ・東北中央自動車道米沢IC供用後の円滑なICアクセスの確保、周辺の各種開発計画の支援等 【計画概要】 ・事業延長　2.4km ・事業費　60億円 【事業経緯】 ・事業化年度　H11 ・都市計画決定又は変更年度　H7 ・用地着手年度　H15 ・工事着手年度　H19 ・供用済延長　－	【事業を巡る社会情勢等の変化】 ・事業の目的が失われるような周辺環境の変化は無い。 【事業の投資効果】 ・算定中 【事業の進捗状況】 ・進捗率　58% 【特記事項】 ・T'99＝13,487台/日→T'05＝14,077台/日 ・客観的評価指標13項目に該当 ・上記の視点から早期整備の必要性が高い	・事業進捗に係る問題はない。 【供用予定等】 ・平成20年代中頃 L=2.4km全線4車線供用予定	・「耐候性鋼材」を採用し、維持管理のコスト縮減を図る。 ・再生資材（再生砕石、再生アスファルト合材等）の活用を図り、コスト縮減を図る。	事業採択後 10年経過継続
12	福島	一般国道13号　福島西道路 【事業種別】 一般二次	【事業目的】 ・福島都市圏における交通混雑の解消 ・交通事故の緩和 ・沿道環境の改善 【計画概要】 ・事業延長　7.7km ・事業費　645億円（暫定：500億円） 【事業経緯】 ・事業化（着工準備）年度　S57 ・都市計画決定又は変更年度　S57 ・用地着手年度　S59 ・工事着手年度　S62 ・供用済延長　6.0km	【事業を巡る社会情勢等の変化】 ・事業の目的が失われるような周辺環境の変化は無い。 【事業の投資効果】 ・算定中 【事業の進捗状況】 ・進捗率　99.8%（完成） ・H元～H19：L=6.0km（4/4)供用 【特記事項】 ・T'99=22,088台/日→T'05=28,176台/日 ・交通混雑の解消と隘路区間の解消 ・客観的評価指標16項目に該当 ・上記の視点から早期整備の必要性が高い	・事業進捗に係る問題はない。 【供用予定等】 ・平成20年度 L=0.2km全線暫定2車線供用予定 ・平成21年度 L=1.7km全線完成4車線供用予定	・長大橋梁を、補強土壁＋単径間橋とすることでコスト縮減を図る。	H15再評価後 5年経過

※精査の関係で数値等が変更になる場合があります。

再評価を実施する事業の一覧表（道路事業）

【別紙２】

No	都道府県名	事業名	事業概要	事業の必要性等に関する視点	事業の進捗の見込みの視点	コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	備　　考
13	福島	一般国道6号　常磐バイパス 【事業種別】 一般二次	【事業目的】 ・いわき地域の拠点間の交流促進や重要港湾小名浜港へのアクセス性向上 ・交通隘路区間の解消 ・交通混雑の解消 ・沿道環境の改善 【計画概要】 ・事業延長　　27.7km ・事業費　1,000億円 【事業経緯】 ・事業化年度　S41 ・都市計画決定又は変更年度　S50 ・用地着手年度　S43 ・工事着手年度　S44 ・供用済延長　16.4km（4/4）	【事業を巡る社会情勢等の変化】 ・事業の目的が失われるような周辺環境の変化は無い 【事業の投資効果】 ・算定中 【事業の進捗状況】 ・進捗率　86% ・H19まで：L=16.4km（4/4）供用 【特記事項】 ・T'99＝31,679台/日→T'05＝37,705台/日 ・交通混雑の解消と隘路区間の解消、沿道環境の改善等 ・客観的評価指16項目に該当 ・上記の視点から早期整備の必要性が高い	・事業進捗に係る問題はない。 【供用予定等】 ・平成30年代前 L=11.3km全線4車線供用予定	・鋼狭小箱桁を採用することによりコスト縮減を図る。 ・再生資材（再生砕石、再生アスファルト合材等）の活用を図り、コスト縮減を図る。	H15再評価後 5年経過
14	福島	一般国道6号　久之浜バイパス 【事業種別】 一般二次	【事業目的】 ・交通隘路区間の解消 ・交通混雑の解消 ・緊急輸送道路の信頼性の向上 ・沿道環境の改善 【計画概要】 ・事業延長　6.0km ・事業費 250億円(暫定：170億円) 【事業経緯】 ・事業化年度　H元 ・都市計画決定又は変更年度　－ ・用地着手年度　H7 ・工事着手年度　H7 ・供用済延長　2.3km（2/4）	【事業を巡る社会情勢等の変化】 ・事業の目的が失われるような周辺環境の変化は無い 【事業の投資効果】 ・算定中 【事業の進捗状況】 ・進捗率　62%（暫定） ・H10：L=2.3km（2/4）供用 【特記事項】 ・T'99＝19,284台/日→T'05＝19,384台/日 ・隘路、線形不良区間の解消、越波等危険箇所の解消、交通混雑の解消、沿道環境の改善等 ・客観的評価指標16項目に該当 ・上記の視点から早期整備の必要性が高い	・用地買収において任意協議継続中であるが、一部難航箇所においては、事業認定の手続きを準備中。 【供用予定等】 ・平成20年代中頃 L=3.7km暫定2車線供用予定	・事業調整し残土運搬距離を短縮することによるコスト縮減を図る。 ・再生資材（再生砕石、再生アスファルト合材等）の活用を図り、コスト縮減を図る。	H15再評価後 5年経過

※精査の関係で数値等が変更になる場合があります。

事後評価を実施する事業の一覧表（道路事業）

No	都道府県名	事業名	事業概要	費用対便益	事業の効果の発現状況	事業実施による環境及び社会経済情勢の変化	備　　考
1	宮城	一般国道47号　鳴子バイパス	【事業目的】 ・大崎市鳴子地区の狭隘箇所・線形不良箇所を解消し、「安全性・快適性の改善」「交通混雑の緩和・沿道環境の改善」「地域間交流の増大」を図るものである。 【事業概要】 ・事業内容 一般二次　L=5.85km ・事業費　87億円 【事業経緯】 ・事業化年度　S54 ・工事着手年度　S57 ・事業完成年度　H15	【事業の投資効果】 ・算定中	○旅行速度が改善 ○交通事故の減少 ○大型車のＢＰへの転換 ○国道47号の特車及び背高ｺﾝﾃﾅ車通行可	○旧道の沿道環境（昼夜間騒音）が改善	事業完了後一定期間が経過した事業 （完了後５年）
2	山形	一般国道13号　松山交差点改良	【事業目的】 山形市松山地区の渋滞を解消し、「円滑な交通の確保」、「安全性の確保」、「沿道環境の改善」を図るものである。 【事業概要】 ・事業内容 一般二次　L=1.0km ・事業費　127億円 【事業経緯】 ・事業化年度　H3 ・工事着手年度　H11 ・事業完成年度　H15	【事業の投資効果】 ・算定中	○旅行速度が改善 ○交通事故の減少 ○渋滞の解消	○沿道環境（昼夜間騒音）が改善	事業完了後一定期間が経過した事業 （完了後５年）
3	山形	一般国道７号　三川バイパス	【事業目的】 ・国道7号鶴岡市から酒田市における通過交通排除による慢性的な渋滞を解消し、「交通混雑の解消」、「交通事故の低減」、「沿道環境の改善」を図るものである。 【事業概要】 ・事業内容 一般二次　L=8.8km ・事業費　218億円(暫定) 【事業経緯】 ・事業化年度　H1 ・工事着手年度　H4 ・事業完成年度　H15	【事業の投資効果】 ・算定中	○旧道の交通量が減少 ○旅行速度が改善 ○交通事故の減少	○旧道の沿道環境（昼夜間騒音）が改善	事業完了後一定期間が経過した事業 （完了後５年）

※精査の関係で数値等が変更になる場合があります。